

- 8 そして彼らはミツパにいるゲダルヤのもとに来た。ネタンヤの子イシュマエル、カレアハの子ヨハナンとヨナタン、タンフメテの子セラヤ、ネトファ人エファイの子ら、マアカ人の子エザンヤ、そして彼らの部下たちであった。
- 9 シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤは、彼らとその部下たちに誓った。「カルデア人に仕えることを恐れてはならない。この地に住んで、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたは幸せになる。
- 10 この私は、見よ、ミツパに住んで、私たちのところに来るカルデア人の前に立とう。あなたがたは、ぶどう酒、夏の果物、油を収穫して器に納め、自分たちが手に入れた町々に住むがよい。」
- 11 モアブや、アンモン人のところや、エドムや、あらゆる地方にいたユダヤ人もみな、バビロンの王がユダに人を残したこと、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを彼らの総督に任命したことを聞いた。
- 12 そこで、ユダヤ人はみな、散らされていたすべての場所からユダの地に帰って来て、ミツパのゲダルヤのもとに行き、非常に多くのぶどう酒と夏の果物を収穫した。

*** 特に断りがない限り、新改訳2017より使用**



希望の光バプテスト教会

2022年 1月 30日 (日)

礼拝メッセージノート

「 エレミヤ解放と新しい総督 」

| エレミヤ書講解-77 エレミヤ書40：1～12 他 小野寺 望 牧師

【 エレミヤ書 40章 】

- 1 【主】からエレミヤにあったことば。バビロンへ引いて行かれるエルサレムとユダの捕囚の民の間で鎖につながれていたエレミヤを、親衛隊の長ネブザルアダンがラマから釈放した後のことである。
- 2 親衛隊の長はエレミヤを連れ出して、彼に言った。「あなたの神、【主】は、この場所にこのわざわいを下すと語られた。
- 3 そして【主】はこれを下し、語ったとおりに行われた。あなたがたが【主】の前に罪ある者となり、その御声に聞き従わなかったため、このことがあなたがたに下ったのだ。
- 4 そこで今、見よ、私は今日、あなたの手にある鎖を解いて、あなたを釈放する。もし私とともにバビロンへ行くのがよいと思うなら、行きなさい。私があなたの世話をしよう。しかし、もし私と一緒にバビロンへ行くのが気に入らないなら、やめなさい。見なさい。全地はあなたの前に広がっている。あなたが行ってよいと思う、気に入ったところへ行きなさい。」
- 5 しかしエレミヤがまだ帰ろうとしないので、「では、バビロンの王がユダの町々を委ねた、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤのところへ帰り、彼とともに民のうちに住みなさい。でなければ、あなたが行くのによいと思うところへ、どこへでも行きなさい。」こうして親衛隊の長は、食糧と品物を与えて、彼を去らせた。
- 6 そこでエレミヤは、ミツパにいるアヒカムの子ゲダルヤのところに行って、彼とともに、その地に残された民の間に住んだ。
- 7 野にいた軍の高官たちとその部下たちはみな、バビロンの王がアヒカムの子ゲダルヤをその地の総督にして、バビロンに捕らえ移されなかった男、女、子どもたち、その地の貧しい民たちを彼に委ねたことを聞いた。

(4ページへ続く)

◆はじめに ～陥落後のエルサレムに働く神の意志

1.文脈

- ①40～44章にかけては、エレミヤの晩年についての記事である。
- ②40：7～43：7までは、エルサレム陥落後のユダの状況について
- ③43：8～44：30までは、エジプトでのエレミヤの活動※第⑥の区分

2.今求められるリーダーの資質：国家、会社、地域、家庭、教会

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 真実を明かされる神

*このメッセージは、神はしもべを通して、真理を示すことを学ぶものである。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

I ラマで解放されるエレミヤ（1節）

1.解放のいきさつ

(1) 解放された場所について、39：14と矛盾するという論争がある。

39:14 “人を遣わして、エレミヤを監視の庭から連れ出し、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤに渡して、家に連れて行かせた。こうして彼は民の間に住んだ。”



(2) この食い違いは矛盾ではない：どのように読み解くか？

- ①エレミヤは監視の庭から解放され、民の間に住むようになった。
- ②エレミヤがエルサレムの町を歩いていた時に、彼のことを知らない兵士がエレミヤを捕らえ、捕囚の民の中に移した。
- ③ユダの各地で捕縛されたイスラエル人たちは、一旦集合の地であるラマに集められた。その中にエレミヤも含まれた。
- ④エレミヤの姿を見た親衛隊の長ネブザルアダンは、即座に彼を解放した。

2.ラマは宗教的・政治的に重要な地

- (1) エルサレムの北方8キロの地にある町。
- (2) 預言者サムエルの出身地。また、ヤコブの妻ラケルが葬られている地である。
*参照箇所 士師20：1～3、1サム7：5～14、10：17など。

II エレミヤの決断（2～6節）

1.ネブザルアダンの言葉

- (1) ユダとエルサレムは主の預言の通りに滅びた。
 - ①エレミヤの崇高な生き方と、その背後にある神の御心を察している。
- (2) 今後について、二者択一の問い ～バビロンかユダか
 - ①バビロンに来るならば、その生活は保障される。
 - ②もし、それが気に入らないなら、好きな所に行って良い。

2.互いの間に生まれた敬意と配慮

- (1) エレミヤは敬意を示し、問いに即答はしなかった。
 - ①バビロンに行く方が生活は楽だろう。しかし、それは本意ではなかった。
- (2) ネブザルアダンも、エレミヤの沈黙から本心を察した。
 - ①ユダに帰ることを勧めた。必要な食糧や物資を与えた。
- (3) ネブザルアダンは異邦人でありながら、エレミヤの崇高な生き方に影響を受けた、霊の目が開けた人物であり、最善の扱いで配慮を示した。

III 総督ゲダルヤの就任（7～12節）

1.ネブカドネツアルによる総督の任命

- (1) ユダの統治 アヒカムの子ゲダルヤが総督に任命される。
 - ①ユダの生末を左右する、重要な役目である。
 - ②以前はゼデキヤの側近だろう。祖父シャファンはヨシヤ王時代の書記官で、律法の書を王に読み上げた。2列22：3～13
- (2) 野にいた軍の高官（将校）たちは、ゲダルヤがいるミツパに集まった。
 - ①壊滅したエルサレム（哀歌2：13）に行政府を置けなかったため、ミツパに総督府を設置した。彼らはゲリラ部隊の長たちである。

2.高官たちへの4つの勧告

- (1) カルデア人（バビロン）に仕えることを恐れるな。
 - ①ゲダルヤの御心に適ったことばは、エレミヤの影響である。
- (2) 彼らに仕えながら、この国に住めば幸せになる。
- (3) カルデア人との交渉は、自らが責任を持って行う。
- (4) 夏の収穫物が残されている間に、早くそれらを刈り入れるように
さらに多くの者がゲダルヤの元を訪れた。
*参照 二かこのいちじくの幻（エレ24章）も、神殿崩壊の季節を反映した啓示。
 - ①モアブ、アモン、エドムなど、かつて反バビロン同盟を組んだ国々に逃亡した者たち。
 - ②ゲダルヤが総督になったと聞いて戻って来た。彼らは既に、夏の収穫を刈り取る生活（畑を与えられて、保証された保障された）に入っていた。

◆まとめ：真実を明かされる神

- (1) エレミヤの内にある真実性が分かった：①語られる預言の正しさ
 - ②ユダを裏切る者ではないこと。頑なさに苦勞しても、契約の民を思う。
- (2) 陥落後のエルサレムにも、神の意志が働いていることが分かった。
 - ①エレミヤ、異邦人ネブザルアダンの敬意や、総督ゲダルヤの言動
*リーダーの意思決定の正しさが、民の幸福に直結→しかし長続きしなかった。
- (3) 一人ひとりが刈り取りを迎える前に、御心に適った応答ができるように。
 - ①クリスチャン：主を悲しませることを恐れよ ②未信者：最悪な結末を迎える前に